

一畠バス株式会社及び松江市交通局の令和8年4月以降のサービス施策に対する 意見募集（パブリックコメント）の結果及び意見概要

1. 意見募集の結果について

開催・調査期間	令和7年12月24日（水）～令和8年1月13日（火）
資料公開場所	市ホームページ、本庁・支所行政資料コーナー、交通政策課
意見提出者数	1
意見等項目数	5

2. ご意見・ご質問の意見概要について

(1)あたかも1社について

日常会話で「あたかも」を使うと、少し芝居がかった、あるいは気取った印象を与えることがあるため、「まるで」を使うのが無難である。

(2)定期券WEB購入システム導入

利用者にとっての利便性向上はもちろん、事業者側にとっても窓口業務の削減や混雑緩和といった大きなメリットがある。

(3)バス接近情報動的データ導入

公共交通の利便性を劇的に向上させる素晴らしい施策である、さらなる利便性向上のため、以下3項目を提案する。

①デジタルサイネージとの連動

スマホを持たない高齢者や観光客向けに、主要なバス停に「あと〇分」と表示するモニターを設置する。

②MaaSアプリとの連携

鉄道やシェアサイクルなど、他の移動手段と組み合わせた最適なルート提案。

③オープンデータの活用

民間のアプリ開発者が自由にデータを使えるようにすることで、より使いやすい独自アプリが登場する可能性。

(4)高齢者、障がい者等への配慮

高齢者、障がい者等の利用に際しては、日常生活において必要不可欠なものであることを踏まえ、最大限の配慮を求める。

(5)既存車両の老朽化に伴う更新

電源立地地域対策交付金を財源として、老朽化した既存車両の更新を行い、輸送の安全性向上、利用者の利便性確保ならびに環境負荷の低減を図り、地域公共交通の安定的な運行体制の確立を目指すべき。